

ラグビーがいま話題だ。というのは、アジア初のラグビーワールドカップ(RWC2019)がわが国で開催されるから。そういえば、RWC2015が英国ブライトンで行われたときを思い出す。日本はそれまでW杯通算1勝、2引き分けを挟んでW杯16連敗中で13位。相手は過去2回のW杯優勝経験を持つランキング3位の南アフリカである。そんな強豪に対して34-32で勝利し、世界中が驚いて「ブライトンの奇跡」と報じられた。

ラグビーは常に身体がぶつかりあう激しいスポーツであるため、選手には驚くべき体力が備わっている。ここで、体力とは一体なにか？ 筋肉が多いマッチョマンか、80分走り回る持久力か、韋駄天のように走る瞬発力か、実はすべてをカバーしている。1年中鍛えているため、首も太く、神経も図太く、風邪などは無縁で、オールマイティといえよう(図2)。



### ◆長期間 人生共に ラガーマン

ところで、「One for all, all for one」というフレーズがよく知られている。「一人はみんなのために、みんなは一人のために」という意味だ。ラグビーでは長い年月、苦しい練習を共に続け、皆と一緒に人生を送っているため、ラガーマンたちの絆はすこぶる強い。

このフレーズの由来は、デュマの小説「三銃士」の中で、銃士たちが誓い合う場面で使われたという。正確には、最後のワンはoneではなく、勝利のwonだったそう。そのため、本来は「一人はみんなのために、みんなは勝利のために」であった。ただ、一つの言葉にいろんな意味を込められるのが日本語なので、すべてを含んでOKとしたい。

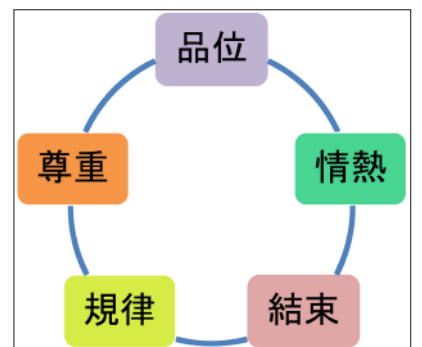


### ◆情熱も 品位も保つ コアバリュー

ラグビーとは紳士のスポーツであり、そのスピリットに内在する5つのコアバリューが知られてきた。

1. 品位 Integrity: 品位とはゲームの核をなすもの。誠実さとフェアプレーによって生まれる
2. 情熱 Passion: 興奮を呼び愛着心を沸かせ、世界中のラグビーファミリーと一体感を生む。
3. 結束 Solidarity: 生涯続く友情や絆、文化・地理・政治・宗教を超えた忠誠心につながる。
4. 規律 Discipline: フィールドの内外で競技規則や規定、コアバリューを遵守して示される。
5. 尊重 Respect: 同僚、相手、ゲームに関わるすべての人を尊重することが最重要である。

いかがだろうか。この5因子はスポーツだけではなく、私たちの日々の暮らしや経済・社会生活、政治・国際関係など、あらゆる領域にも当てはまるといえよう。ラグビーの練習や試合を観戦しながら、プレーのすごさだけでなく、その背景にある一流人たる所以に改めて気づく機会となるだろう。



(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)